資治通鑑 第 157 巻

令和 5 年 2 月 10 日

【梁紀十三】　起旃蒙單閼，盡強圉大荒落，凡三年。

■梁、●西魏、東魏東魏、続国訳漢文大成 経子史部 第 9 巻 146p

高祖武皇帝十三大同元年（乙卯，５３５年）

■春，正月，戊申（44-44+1=１日）朔，大赦し，改元す。

●［西魏文景帝即位］是の日，魏の**文帝**は城西（長安城の西。古に天子の即位は前殿に御す。魏は高歡が孝武帝を立てるより、復た夷禮を用いて郊外に天を拝し而る後に即位す）に於いて即位し，大赦し，改元して大統とし，父の**京兆王**を追尊して**文景皇帝**と為し，妣楊氏を皇后と為す。

●東魏［東魏は孝文帝の喪に服す］魏の渭州刺史の**可朱渾道元**は先に**侯莫陳悅**に附き，**悅**は死して（前巻大通六年），丞相の**泰**は之を攻めるも，克つ能わず，與に盟し而して罷む。**道元**は世々懷朔（六鎮の一つ、懷朔鎮、現・包頭市固陽県懷朔鎮）に居り，東魏の丞相の**歡**と善し。又た母の兄は皆な鄴に在り，是に由りて常に**歡**と通じる。**泰**は之を撃たんと欲し，**道元**は所部三千戸を帥いて西北に烏蘭津（平涼の西北、甘粛省涇原道平涼県、現・平涼市崆峒区）を度りて靈州（山西省雁門道大同県、現・大同市）に抵り，靈州刺史の**曹泥**は（9-147p）資送して雲州に至る。**歡**は之を聞き，資糧を遣わして迎候し，車騎大将軍に拝す。**道元**は晉陽に至り，**歡**は始めて**孝武帝**之喪を聞き，啟して哀を舉げ服を制するを請う。**東魏主**は群臣をして之を議せ使め，太學博士の**潘崇和**は以為く、

「君は臣を遇するに禮を以てせざれば則ち反服無し，是を以て**湯**之民は**桀**を哭せず，**周武**之民は**紂**を服せず。」

國子博士の**衛既隆**、**李同軌**は議して以為く、

「**高后**は永熙に於いて離絕未だ彰かならず（高歡は初め孝武帝を建て、その長女を納れ皇后と為す。帝の西奔るや皇后は留まりて従わず），宜しく之が服を為すべし。」

東魏は之に従う。

●［魏は靈州を攻め、曹泥は降伏］魏の驍騎大将軍、儀同三司の**李虎**等は費也頭（宇文泰の族）之衆を招諭し，之と共に靈州を攻め，凡そ四旬，**曹泥**は降を請う。

●己酉（45-44+1=２日），魏は丞相の略陽公の**泰**を進めて都督中外諸軍、錄尚書事、大行台と為し，安定王に封じる。**泰**は王爵及び錄尚書を固辭し，乃ち安定公に封じる。尚書令の**斛斯椿**を以て太保と為し，廣平王の**贊**を為司徒と為す。

●［魏主皇后は仁恕節儉］乙卯（51-44+1=８日），**魏主**は妃の**乙弗氏**（乙弗の先世は吐谷渾の渠帥たり、青海に居る）を立てて**皇后**と為し，子の**欽**を**皇太子**と為す。**后**は仁恕節儉にして，妒忌せず，**帝**は甚だ之を重んず。

東魏［高歡は稽胡を破る］稽胡（李延壽曰く、稽胡は一に步落稽と曰う、蓋し匈奴の別種劉元海五郎の苗裔なり。或は云う、山戎赤狄の後と。離石より以西、安定以東の方七八百里、山谷の間に居り、種落繁盛なりと）の**劉蠡升**は，孝昌より以來，**天子**を自稱し，改元して神嘉とし，雲陽谷に居る。魏之邊境は常に其の患いを被り，之を「胡荒」と謂う。壬戌（58-44+1=１５日），東魏の丞相の**歡**は襲撃し，大いに之を破る。

東魏［高歡は婁妃と世子澄を許す］勃海（高歡は渤海王に封じられる）の世子の**澄**は**歡**の妾の**鄭氏**に通じ，**歡**は（稽胡討伐より）歸り，一婢は之を告げ，二婢は證（証明）を為す。**歡**は**澄**を杖つこと一百而して之を幽し，**婁妃**も亦た隔絕して見るを得ず。**歡**は魏の**敬宗**之**后**の**爾朱氏**を納れ，寵有り，子の**洽**を生み，**歡**は之を立て

んと欲す。**澄**は救いを**司馬子如**に求める。**子如**は入りて**歡**に見え，偽りて知らざる者と為し，**婁妃**を見るを請う。**歡**は其の故を告げる。**子如**は曰く、

「**消難**（司馬消難は子如の子）は亦た**子如**の妾に通ぜり，此の事は正に掩覆す可し。妃は是れ**王**の結髪の婦なり，常に父母の家財（妃の実家の財力で馬を用意）を以て**王**に奉じる（糟糠の妻とす）。**王**が懐朔に在りて杖を被り，背に完皮無きに，妃は晝夜供侍す。後に葛賊（葛榮）を避け，同じく并州に走り，貧困し，妃は馬矢（馬糞）を然やし自ら靴を作る。恩義は何を忘る可けん也！夫婦は相い宜しく，女は至尊に配し（次女の長を孝武帝に配し、次は孝静帝に配す），男（澄）は大業を承ける。且つ**婁領軍**（妃の弟の婁昭は領軍将軍）之勳は，何ぞ宜しく搖動すべけんや！一女子は草芥の如し，況んや婢の言は必ずしも信ならざるを邪！」

歡は因りて**子如**をして更に之を鞫せしむ。**子如**は**澄**を見，之を尤（とが）めて曰く、

「男兒は何の意か威を畏れて自ら誣うる！」

因りて二婢に教えて其の辭を反せしめ，告げる者を脅かして（責任転嫁）自ら縊（くび）らしむ，乃ち**歡**に啟して曰く、

「果たして虚言也。」

歡は大いに悦び，**婁妃**及び**澄**を召す。妃は遙に**歡**を見，一たび歩み一たび叩頭し，**澄**は且つ拝し且つ進む。父子、夫婦は相い泣く，復た初めの如し。**歡**は酒を置きて曰く、

「我が父子を全くする者は，**(9-148p) 司馬子如**也！」

之に賜るに黄金百三十斤。

●甲子（60-44+1=１７日），魏は廣陵王の**欣**を以て太傅と為し，儀同三司の**万俟受洛干**を司空と為す。

東魏己巳（5+60-44+1=２２日），東魏は丞相の**歡**を以て相國と為し，黄鉞を假し，殊禮す。固辭す。

東魏●［**司馬子如は華州攻略失敗**］東魏の大行台尚書の**司馬子如**は大都督の**竇泰**、太州（秦州の誤り、秦を泰、泰を太に誤る。東魏は秦州を河東に置き、河東・北海二郡を領す）刺史の**韓軌**等を帥いて潼關を攻め，魏の丞相の**泰**は霸上に軍す。**子如**は**軌**と軍を回し，蒲津より宵に濟り，華州（後魏は東雍州を鄭県の置き、西魏は改めて華州と曰う、河南省開封道鄭県、現・鄭州市金水区）を攻める。時に修城は未だ畢わらず，梯は城外に倚り，曉ける比おい，東魏の人は梯に乗り而して入る。刺史の**王羆**は臥して未だ起たず，閤外に匈匈として聲有るを聞き，袒身露髻し徒跣して，白梃（杖）を持し大呼し而して出で，東魏人は之を見て驚き卻く。**羆**は逐に東門に至り，左右は稍く集まり，合戰し，之を破り，**子如**等は遂に引いて去る。

■二月，辛巳（17-14+1=４日），**上**は明堂に祀す。

東魏壬午（18-14+1=５日），東魏は咸陽王の**坦**を以て太傅と為し，西河王の**悰**を太尉と為す。

東魏［**洛陽宮を壊してに運ぶ**］東魏は尚書右僕射の**高隆之**をして十萬夫を發して洛陽の宮殿を撤し，其の材を運びて鄴に入れ使む。

■丁亥（23-14+1=１０日），**上**は籍田を耕す。

東魏●［**婁昭は兗州の樊子鵠を斬る**］東魏の儀同三司の**婁昭**等は兗州を攻め，**樊子鵠**（東魏に背く）は前膠州刺史の**嚴思達**をして東平（泰常中に東平郡を置き太和の末に罷む。建義中に復た置き、秦城に治し、齊州に属す。山東省東臨道范県、現・濮陽市范県）を守ら使め，**昭**は攻めて之を抜く。遂に兵を引いて瑕丘を圍み，久しく下らず，**昭**は水を以て城に灌ぐ。己丑（25-14+1=１２日），**大野拔**は**子鵠**を見て事を計り，因りて其の首を斬り以て降る。始め，**子鵠**は衆の少なきを以て，悉く老弱を驅りて兵と為す，**子鵠**死して，各々散り走る。諸將は**婁昭**に盡く捕えて之を誅するを勸め，**昭**は曰く、

「此の州は不幸にして，横しまに殘賊せられ，官軍を跂望（跂を擧げて望む）し以て塗炭を救わんとす。今復た之を誅すれば，民は將に誰をか訴えんや！」
皆な之を捨く。
■東魏［陳慶之は東魏と交戦］戊戌（34-14+1=２１日），司州刺史の**陳慶之**は東魏を伐ち，豫州（汝南に治す）刺史の**堯雄**と戦い，利あらず而して還る。
東魏三月，辛酉（57-43+1=１５日），東魏は**高盛**を以て太尉と為し，**高敖曹**を司徒と為し，濟陰王の**暉業**を司空と為す。
東魏［高歡は劉蠡升討伐］東魏の丞相の**歡**は偽りて**劉蠡升**と和を約し，女を以て其の**太子**に妻あわすを許し。**蠡升**は備えを設けず，**歡**は兵を擧げて之を襲う。辛酉（57-43+1=１５日），**蠡升**の北部王は**蠡升**の首を斬りて以て降る。餘衆は復た其の子の南海王を立て，**歡**は進撃して，之を擒とし，其の**皇后**、諸王、公卿以下四百餘人，華、夷五萬餘戸を俘とす。
東魏［高歡は孝武帝皇后を再嫁させる］壬申，**歡**は入りて鄴に朝し，**孝武帝**の**后**（高歡の長女）を以て彭城王の**韶**に妻あわす。

【蘇綽を得て宇文泰の西魏は戸籍・制度充実】
●［２４条の新制］魏の丞相の**泰**は軍旅未だ息まず，吏民は勞弊するを以て，所司に命じて古今の以て時に便に治に適す可き者を斟酌し，二十四條の新制を為らしめ，奏して之を行う。
●［蘇綽は王佐の才有り、戸籍法など整備］**泰**は武功（太和 11 年に扶風を分けて武功郡を置き、岐州に属す。漢魏の武功県。陝西省關中道武功県、現・咸陽市武功県武功鎮）の**蘇綽**を用いて行台郎中と為し（9-149p），居ること歳餘，**泰**は未だ之を知らざる也，而るに台中は皆な其の能を稱し，疑事有れば皆な就きて之を決す。**泰**は僕射の**周惠達**と事を論じ，**惠達**は對える能わず，出でて之を議せんと請う。出でて，以て**綽**に告げ，**綽**は之が為に區處し，**惠達**は入りて之を白す，**泰**は善しと稱して，曰く、
「誰か卿と此の議を為す者ぞや？」
惠達は**綽**を以て對え，且つ、
「**綽**は王佐之才有り」
と稱し，**泰**は乃ち**綽**を擢んでて著作郎と為す。**泰**は公卿と昆明池に如き漁を觀，行きて漢の故に倉池（長安城の西、池に塹壕有り）に至り，左右に顧問するに，知る者有る莫し。**泰**は**綽**を召して之を問い，具に狀を以て對える。**泰**は悦び，因りて天地造化之始め，歴代興亡之跡を問い，**綽**は應對すること流れるが如し。泰は**綽**と馬を綽べて徐行し，池に至り，竟に網罟（漁をするのが目的で無く、蘇綽に問う為なり）を設けず而して還る。遂に**綽**を留めて夜に至り，問うに政事を以てし，臥し而して之を聽く。**綽**は治を為す之要を指陳し，**泰**は起き，衣を整えて危坐し（改めて感動して威儀を正して座り直す），膝之席を前むを覺えず，語りて遂に曙に達すれども厭（あ）きず。詰朝，**周惠達**に謂って曰く、
「**蘇綽**は真の奇士なり！吾は方に之に任ずるに政を以てせん。」
即ち大行台左丞に拜し，機密に參典せしめ，是より寵遇は日々に隆し。**綽**は始めて文案の程式、朱出、墨入及び計帳（来年の課役の見積もり予算など）、戸籍之法を制し，後人は多く之を遵用す。

東魏［封延之は改易謀反討伐］東魏は**封延之**を以て青州刺史と為し，**侯淵**に代わらしむ。**淵**は既に州任を失い而して懼れ，行きて廣川（山東省濟寧道長山県、現・浜州市鄒平市）に及び，遂に反し，夜，青州の南郭を襲

い，郡縣を劫掠す。夏，四月，丞相の**歡**は濟州刺史の**蔡俊**をして之を討た使む。**淵**の部下は多く叛し，**淵**は南奔せんと欲し，道に於いて賣漿者（水売り）の斬る所と為り，首を鄴に送られる。

■東魏［元慶和と東魏の全面衝突］**元慶和**は東魏の城父（安徽省淮泗道亳県、現・亳州市譙城区）を攻め，丞相の**歡**は**高敖曹**を遣わして三萬人を帥いて項（河南省開封道項城県、現・周口市項城市）に趣かしめ，**竇泰**をして三萬人を帥いて城父に趣かしめ，**侯景**をして三萬人を帥いて彭城に趣かしめ，**任祥**を以て東南道行台僕射と為し，諸軍を節度せしむ。

●五月，魏は丞相の**泰**に柱國を加える。

■東魏［元慶和は南兗州に迫る］**元慶和**は兵を引いて東魏の南兗州に逼り，東魏の洛州刺史の**韓賢**は之を拒む。六月，**慶和**は南頓を攻め，豫州刺史の**堯雄**は之を破る。

●秋，七月，甲戌（10+60-41+1=３０日），魏は開府儀同三司の**念賢**を以て太尉と為し，**万俟受洛干**を司徒と為し，開府儀同三司の**越勒肱**（越勒部に出る）を司空と為す。

■［梁と魏の益州争奪戦］益州刺史の鄱陽王の**范**、南梁州（五代志に晉安郡に梁州・南梁州を置き、後に改めて安州という。西魏は改めて始州という。四川省嘉陵道劍閣県、現・広元市劍閣県）刺史の**樊文熾**は兵を合わせて晉壽（嘉陵道昭化県の東南 50 里、現・広元市元壩区）を圍み，魏の東益州刺史の**傅敬和**は（9-150p）來降す。**范**は，**恢**（蕭衍の弟、費妃の子 476-526）之子。**敬和**は，**豎眼**（功は梁益に顕わす）之子也。

●魏は下詔して**高歡**の二十の罪を數え，，且つ曰く、

「**朕**は將に親ら六軍を總べ，丞相と凶丑を掃除せんとす。」

歡も亦た檄を魏に移し，**宇文黑獺**、**斛斯椿**を謂って逆徒と為し，且つ言う、

「今諸將に分命し，兵百萬を領し，期を刻して西討せん。」

東魏■東魏は行台の**元晏**を遣わして**元慶和**を擊たしむ。

東魏或は告げる、

「東魏の司空の濟陰の**王暉業**は七兵尚書（曹魏は五兵尚書を置き、中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵。晉には中外を左右に分けて七曹とす。然れども尚書は五兵のみ。後魏に至りて初めて七兵尚書とす）の**薛琡**と魏に貳あり」

と，八月，辛卯（27-11+1=１７日），執りて晉陽（高歡が居る所）に送り，皆な免官す。

東魏［鄴の新宮大造営］甲午（30-11+1=２０日），東魏は民七萬六千人を發して新宮を鄴に作り，僕射の**高隆之**と司空の胄曹（元魏の公府に法墨田水鎧胄集士などの曹ありてみな行参軍なり）參軍の**辛術**と共に之を營ま使め，鄴の南城を築くこと週は二十五里。**術**は，**琛**（146 卷天監六年にあり）之子也。

●東魏■［趙剛は賀拔勝、獨孤信を誘う］**趙剛**は蠻中（蠻中に没すること前卷前年にあり）より往きて東魏の東荊州刺史の趙郡の**李愍**を見，勸めて魏に附か使め，**愍**は之に從い，**剛**は是に由りて長安に至るを得る。丞相の**泰**は**剛**を以て左光祿大夫と為す。**剛**は**泰**に說く、

「**賀拔勝**、**獨孤信**等を梁より召せ」

と，**泰**は**剛**をして來たりて之を請わしむ。

東魏九月，丁巳（53-40+1=１４日），東魏は開府儀同三司の襄城王の**旭**（城陽王徽の弟）を以て司空と為す。

●冬，十月，魏の太師の上黨文宣王の**長孫稚**は卒す。

●魏の秦州刺史の**王超世**は，丞相の**泰**之內兄（母の黨の兄弟、いとこ）也，驕り而して貨に黷（けが）る，**泰**は奏して法を加えんと請い，詔して死を賜わる。

■［梁に賢相無し］十一月，丁未（43-39+1=５日），侍中、中衛將軍の**徐勉**は卒す。**勉**は骨鯁と雖も**范雲**に及ばす，亦た意に阿（おもね）り苟しくも合わず，故に梁の世は賢相と言う者は**范**、**徐**を稱すと雲う。（范徐は既に

没し、専ら朱异に任ず、梁危うし）

東魏癸丑（49-39+1=１１日），**東魏主**は圜丘に祀す。

東魏［任忻集は謀殺される］甲寅（50-39+1=１２日、甲午×），東魏の閶闔門は災す。門之初めて成る也，**高隆之**は馬に乗りて遠望し，其の匠に謂って曰く、

「西南獨り高きこと一寸。」

之を量るに果たして然り，太府卿の**任忻集**は自ら其の巧に矜り，肯えて改めず。**隆之**は之を恨む，是に至りて丞相の**歡**に譖して曰く、

「**忻集**は潜に西魏に通じ，令人をして故（ことさら）（故意）に之を燒かしむ。」

歡は之を斬る。

■●北梁州刺史の**蘭欽**は兵を引いて南鄭を攻め，魏の梁州刺史の**元羅**は州を擧げて降る。

東魏［高洋は見込み有り］東魏は丞相の**歡**之子の**洋**を以て驃騎大將軍、開府儀同三司と為し，太原公に封じる。**洋**は内には明決に而して（9-151p）外は不慧の如し，兄弟及び集人は皆な之を嗤鄙（卑しむ）す。獨り**歡**は之を異とし，長史の**薛琡**に謂って曰く、

「此の兒の識慮は吾に過ぎる。」

幼時，**歡**は嘗て諸子の意識を觀んと欲し，各々をして亂絲を治め使む，**洋**は獨り刀を抽きて之を斬り，曰く、

「亂るる者は必ず斬る！」

又た各々兵を配して四出し，都督の**彭樂**をして甲騎を帥いて偽りて之を攻め使め，兄の**澄**等は皆な怖れて撓れ，**洋**は獨り衆を勒して**樂**と相い格し，樂は胄を免いで情（事情）を言い，猶ほ之を擒として以て獻す。

東魏［幼卿の再任用］初め，大行台右丞の**楊愔**の從兄の岐州刺史の**幼卿**は，直言を以て**孝武帝**の殺す所と為り，**愔**の同列の**郭秀**は其の能を害（い）み，之を恐れて曰く、

「**高王**は卿を**帝**の所に送らんと欲す。」

愔は懼れ，姓名を變じて田横島（山東省謬東道即墨県、現・青島市即墨区）に逃げる。之久しく，**歡**は其の尚ほ在るを聞き，召して太原公の開府司馬と為す，之頃くして，復た大行台右丞と為す。

東魏十二月，甲午（30-9+1=２２日），東魏の文武官は事を量りて祿を給す。（給与査定）

●魏は**念賢**を以て太傅と為し，河州刺史の**梁景睿**を太尉と為す。

■［鮮于琛の討伐］是の歲，鄱陽の妖賊の**鮮于琛**は改元して上願とし，衆萬餘人有り。鄱陽内史の吳郡の**陸襲**は討ちて之を擒とし，黨與を案治し，濫死者無し。民は之を歌いて曰く、

「鮮于平らぎて後に善惡分かれる，民に枉死無きは**陸君**に賴る。」

柔然 東魏［柔然と東魏の和親］柔然の**頭兵可汗**は婚を東魏に求め，丞相の**歡**は常山王の妹を以て**蘭陵公主**と為し，之に妻あわす。柔然は數々魏を侵し，魏は中書舍人の**庫狄峙**をして使いを奉じて柔然に至り，與に和親を約せ使め，是に由りて柔然は復た寇を為さず。

高祖武皇帝十三大同二年（丙辰，５３６年）

●春，正月，辛亥（47-39+1=９日），魏は南郊に祀し，改めて**神元皇帝**（拓跋力微）を用って配す。（魏の太和16年に太祖道武帝を以て南郊に配す）

【東魏の高歡の政治と軍事充実】

東魏●［高歡は魏の夏州を侵略］甲子（60-39+1=２２日），東魏の丞相の**歡**は自ら萬騎を將して魏の夏州を襲い，身は火食せざること，四日に而して至り，槎を縛して梯と為し，夜其の城に入り，刺史の**斛拔俄彌突**を擒とし，因り而して之を用い，都督の**張瓊**を留めて兵を將いて鎮守せしめ，其の部落五千戶を遷して以て歸る。

●［**曹泥**は反して東魏に附く］魏の靈州刺史の**曹泥**は其の婿の涼州刺史の普樂（郡の名、靈州に属す）の**劉豐**と與に，復た叛して（去年魏に降ったばかり）東魏に降り，魏人は之を圍み，水を其の城に灌ぎ，沒せざる者は四尺。東魏の丞相の**歡**は**阿至羅**の三萬騎を發して徑ちに靈州を度り，繞りて魏の師之後に出でしめ，魏の師は退く。**歡**は騎を帥いて**泥**及び**豐**を迎え，其の遺戶五千を拔きて以て歸り，**豐**を以て南汾州（東魏は定陽に置く、山西省河東道吉県、現・臨汾市吉県）刺史と為す。

東魏東魏は丞相の**歡**に九錫を加える。固く讓り而して止む。

■［無実の人を殺してその材を取りて寺を作る］**上**は**文帝**（帝は父の蕭順之を追尊して文皇帝とする）の為に皇基寺を作り以て追福し，有司に命じて良材を求めしむ。曲阿の**弘氏**は湘州より巨材を買いて東して南津に下らしめ、(9-152p) 校尉の**孟少卿**は媚を**上**に求めんと欲し，

「**弘氏**は劫を為す」

と誣い、而て之を殺し，其の材を沒して以て寺を爲る。

■二月，乙亥（11-8+1=４日），**上**は藉田に耕す。

東魏●［高澄は朝政輔けて嚴峻なり］東魏の勃海の世子の**澄**は，年は十五，大行台、并州刺史と為り（中大通五年に高歡は大行台となり、高歡は澄に授ける。高歡は晉陽に在り、并州刺史は要地重任なりて故に澄を以てこれと為す），鄴に入りて朝政を輔けるを求め，丞相の**歡**は許さず。丞相の主簿の樂安の**孫搴**は之が為に請い，乃ち之を許す。丁酉（33-8+1=２６日），**澄**を以て尚書令と為し，領軍、京畿大都督を加える。魏朝は其の器識を聞くと雖も，猶ほ年少なるを以て之を期す。既に至り，法を用いるに嚴峻にして，事は凝滯無し，中外は震肅す。并州の別駕の**崔暹**を引いて左丞、吏部郎と為し，之を親任す。

東魏［高歡の魏收、陳元康、趙彦深など人材登用］**司馬子如**、**高季式**は**孫搴**を召して劇しく飲み，醉いて甚だしく而して卒す。丞相の**歡**は親ら其の喪に臨む。**子如**は叩頭して罪を請い，**歡**は曰く、

「卿は我が右臂を折る，我が為に代わる可き者を求めるべし！」

子如は中書郎の**魏收**を舉げ，**歡**は**收**を以て主簿と為す。收は，**子建**（150 巻普通五年にあり）之子也。它日，**歡**は**季式**に謂って曰く、

「卿は飲みて我が**孫主簿**を殺せり，**魏收**は文書を治めること我が意の如くせず。司徒は嘗て一人の謹密なる者を稱せり、誰と為すや？」

季式は司徒（高敖曹を司徒となす）記室の廣宗の**陳元康**を以て對えて，曰く、

「是れ能く夜中に闇書す，快吏也。」

之を召し，一見して，即ち大丞相の功曹を授け，機密を掌らしめ，大行台の都官郎に遷す。時に軍國は多務なりて，**元康**は問いて知らざる無し。**歡**は或は出でて，行に臨み，**元康**を留めて後に在らしめ，馬上に號令する所有ること九十餘條，**元康**は指を屈して之を數え，盡く能く記憶す。功曹の平原の**趙彦深**と同じく機密を知り，時の人は之を**陳**、**趙**と謂う。而して**元康**の勢いは**趙**の前に居り，性も又た柔謹なり，歡は甚だ之を親しみて，曰く、

「此くの如き人は誠に得難し，天が我に賜わる也！」
彦深の名は**隱**，字を以て行われる。
東魏●［阿至羅は魏に侵入］東魏の丞相の**歡**は**阿至羅**（高車）をして魏の秦州刺史の**万俟普**に逼ら令め，**歡**は衆を以て之に應じる。

【梁に衰退の兆し有り】

■［道士・陶弘景は梁の軟弱の弊害を予言］三月，戊申（44-38+1=７日），丹楊の**陶弘景**（456-536、医学者・科学者であり、道教の茅山派の開祖。字は通明）は卒す。**弘景**は博學にして多藝、能く養生之術を好む。齊に仕えて奉朝請と為り，官を棄てて，茅山（江蘇省金陵道句容県の東南、現・鎮江市句容市）に隱居す。**上**は早く之と遊び，即位に及び，恩禮は甚だ篤し，其の書を得る毎に，香を焚きて虔受す。屢々手敕を以て之を招けども，**弘景**は出でず。國家は吉凶征討の大事有る毎に，先ず之に諮（咨?、続の諮の方が良い）らざる無し，月中（一月の内に）常に數信有り，時の人は之を謂うに「山中宰相」という。將に沒せんとし，詩を為りて曰く、
「**夷甫**（王衍の字）は散誕に任じ，**平叔**（何晏の字、魏晋を以て梁に喩えるなり）は坐して空を論ず。豈に悟らんや昭陽殿，遂に單于の宮と作らんとは！」（弘景傳に云わく、後に弘景纂すること果たして昭陽殿に在りと。修道の士は時を知り数を知る物有り、蕭衍が非業の死を遂げることを予期したともいえる）
時に士大夫は競いて玄理を談じ，武事を習わず，**(9-153p)** 故に**弘景**の詩は之に及ぶ。
東魏甲寅（50-38+1=１３日），東魏は華山王の**鷙**を以て大司馬と為す。
●魏は涼州刺史の**李叔仁**を以て司徒と為し，**万俟洛**（字は洛干、また壽洛干ともいう）を太宰と為す。
■［梁の江子四の極言］夏，四月，乙未（31-7+1=２５日），驃騎大將軍、開府同三司之儀（梁には開府同三司の下にあり）の**元法僧**を以て太尉と為す。
尚書右丞の考城の**江子四**は封事を上り，政治の得失を極言す。五月，癸卯（39-37+1-３日），詔して曰く、
「古人に言有り，『屋漏は上に在り，之を知るは下に在り』。**朕**は過失有り，自ら覺る能わず，**江子四**等の封事の言う所は，尚書は時に檢括を加える可し，民に於いて蠹患（木食い虫）する者有れば，宜しく速に詳しく啟すべし！」

東魏戊辰（4+60-37+1=２８日），東魏の**高盛**（東魏の大尉）は卒す。
●魏の**越勒肱**（西魏の司空）は卒す。
東魏●［万俟普らは東魏に奔る］魏の秦州刺史の**万俟普**は其の子の太宰の**洛**、豳州刺史の**叱干寶樂**、右衛將軍の**破六韓常**及び督將三百人と東魏に奔り（阿至羅の兵が近く、圧迫されて奔る），丞相の**泰**は輕騎にして之を追い，河北（龍門西河の北）の千餘里に至り，及ばず而して還る。
秋，七月，庚子（36-36+1=１日），東魏は大赦す。
■［賀拔勝は蕭衍許可で西魏に帰還の苦難］**上**は魏の降將の**賀拔勝**等を待つこと甚だ厚く，**勝**は**高歡**を討つを請う，**上**は許さず。**勝**等は歸るを思い，前荊州大都督の撫寧の**史寧**は**勝**に謂って曰く、
「**朱異**が**梁主**に言えば，從わざる無し，厚く之に結ぶを請う。」
勝は之に從う。**上**は**勝**、**寧**及び**盧柔**（去年賀拔勝と一緒に来奔）に皆な北に還るを許し，親ら之を南苑に餞す。**勝**は**上**の恩を懷い，是より鳥獸（続は禽獸）の南に向う者を見れば皆な之を射たず。行きて襄城に至り，東魏の丞相の**歡**は**侯景**を遣わして輕騎を以て之を邀えしめ，**勝**等は舟を棄てて（船行し淮水・潁水・汝水から山路に入る）山路より逃げ歸り，從者は凍餒（凍え飢える）し，道に死する者は太半なり。既に長安に至り，闕に

詣りて謝罪す。**魏主**は**勝**の手を執りて歔欷（啜り泣く、むせび泣く）して曰く、
「乗輿播越するは，天也，卿之咎に非ず。」
丞相の**泰**は**盧柔**を引いて従事中郎と為し，**蘇綽**と對して機密を掌らしむ。
東魏■［東魏の侯景は梁に入寇］九月，壬寅（38-35+1=４日），東魏は定州刺史の**侯景**を以て尚書右僕射、南道行台を兼ね，諸將を督して入寇せしむ。
●魏は扶風王の**孚**を以て司徒と為し，**斛斯椿**を太傅と為す。
■［梁は北伐し侯景を撃破］冬，十月，乙亥（11-4+1=８日），詔して大舉して東魏を伐たしむ。東魏の**侯景**は兵七萬を將して楚州（梁が置く、楚城に治し汝陽・許城・城陽郡を領す）を寇し，刺史の**桓和**を虜とす。淮上に進軍し，南、北司二州刺史の**陳慶之**は擊ちて之を破り，**景**は輜重を棄てて走る。十一月，己亥（35-34+1=２日），北伐之師を罷む。**(9-154p)**
●魏は復た始祖の**神元皇帝**を改めて**太祖**と為し，**道武皇帝**を**烈祖**と為す。（入替えは 137 巻齊の武帝永明九年にもあり）
東魏十二月，東魏は并州刺史の**尉景**を以て太保と為す。

【東魏は梁と和睦して魏に侵攻】

東魏壬申（8-3+1=６日），東魏は遣使して和を請い，**上**は之を許す。
東魏東魏の清河文宣王の**但**は卒す。
東魏［東魏は魏を攻撃］丁丑（13-3+1=１１日），東魏の丞相の**歡**は諸軍を督して魏を伐ち，司徒の**高敖曹**を遣わして上洛に趣かしめ，大都督の**竇泰**をして潼關に趣かしむ。
東魏癸未（19-3+1=１７日），東魏は咸陽王の**坦**を以て太師と為す。
●［關中大飢饉］是の歳，魏の關中は大いに饑え，人は相い食み，死者は什に七八。

高祖武皇帝十三大同三年（丁巳，５３７年）

■春，正月，上は南郊に祀し，大赦す。
東魏●［高歡は竇泰を急襲し、高歡を撃退］東魏の丞相の**歡**は蒲板に軍し，三浮橋を造り，河を度らんと欲す。魏の丞相の**泰**は廣陽（魏の景明元年に廣陽県を置き、馮翊郡属す）に軍し，諸將に謂って曰く、
「賊は吾が三面に掎し，浮橋を作りて以て必ず度るを示す。此れ吾が軍を綴めて，**竇泰**をして西に入るを得ら使めんと欲す耳。**歡**は兵を起こしてより以來，**竇泰**は常に前鋒と為り，其の下に鋭卒は多く，屢々勝ち而して驕り，今之を襲えば，必ず克たん。**泰**（竇泰）に克てば，則ち**歡**は戰わずして自ら走らん矣。」
諸將は皆な曰く、
「賊は近くに在り，捨てて而して遠きを襲い，脫し蹉跌有れば，悔ゆるとも何ぞ及ばん也！兵を分けて之を御ぐに如かず。」
丞相の**泰**は曰く、
「**歡**は再び潼關を攻め（中大通六年に高歡は潼關を攻める），吾が軍は灞上に出でず，今大舉し而して來たり，吾は亦た當に自ら守るべしと謂い，我を輕んじる之心有り。此に乗りて之を襲えば，何ぞ克たざるを患えん！賊は浮橋を作ると雖も，未だ徑ちに度る能わず，五日を過ぎずして，吾は**竇泰**を取ること必ずなり矣！」

行台左丞の**蘇綽**、中兵參軍の代人の**達奚武**も亦た以て然りと為す。庚戌（46-33+1=１４日），丞相の**泰**は長安に還り，諸將の意は猶ほ異同あり。丞相の**泰**は其の計を隠し，以て族子の直事郎中（晉の武帝は直事郎を置き、尚書諸曹郎の飢えにあり）の**深**に問い，**深**は曰く、

「**寶泰**は，**歡**之驍將なり，今大軍は蒲板を攻めれば，則ち**歡**は拒守し而して**泰**は之を救わん，吾は表裡に敵を受けん，此れ危うき道也。輕鋭を選びて潛に小關（潼關の左にあり）を出でんに如かず，**寶泰**は躁急なり，必ず來たりて決戰せん，**歡**は持重して未だ即ち救わず，我が急に**泰**を擊てば，必ず擒とす可き也。**泰**を擒とすれば則ち**歡**の勢いは自ら沮まん，師を回して之を擊てば，以て決勝す可し。」

丞相の**泰**は喜んで曰く、

「此れ吾が心也。」

乃ち聲言して隴右を保たんと欲す。辛亥（47-33+1=１５日），**魏主**に謁し而して軍を潜めて東に出，癸丑（49-33+1=１７日）旦に，小關に至る。**寶泰**は猝に軍の至るを聞き，風陵より度り，丞相の**泰**は馬牧澤（三秦記に曰く、桃林の塞は長安の東 400 里に在り。若し軍馬の経過するあれば、則ち華山に牧し、林下に休息すと）に出で，**寶泰**を擊ち，大いに之を破り，士衆は皆な盡き，**寶泰**は自殺し，首を長安に傳える。丞相の**歡**は河冰の薄きを以て**(9-155p)**，赴きて救うを得ず，浮橋を撤して而して退き，儀同の代人の**薛孤延**は殿と為り，一日之中斫りて十五刀折れ，乃ち免かるるを得たり。丞相の**泰**も亦た軍を引いて還る。

東魏●［高敖曹は流矢に三本当たり重症］**高敖曹**は商山より轉斗し而して進（続は退）み，向かう所前無く，遂に上洛を攻める。郡人の**泉岳**及び弟の**猛略**は順陽人の**杜窋**等と城を翻えして之に應じんと謀り，洛州刺史の**泉企**は之を知り，**岳**及び**猛略**を殺す。**杜窋**は走りて**敖曹**に歸し，**敖曹**は以て鄉導と為し而して之を攻める。**敖曹**は流矢を被り，通中する者は三，殞絕すること良く久しく，復た馬に上り，冑を免ぎて城を巡る。**企**は固守すること旬餘，二子の**元禮**、**仲遵**は力戰して之を拒み，**仲遵**は目を傷け，復た戰うに堪えず，城は遂に降る。**企**は**敖曹**を見て曰く、

「吾が力は屈せり，心服するに非ざる也。」

敖曹は**杜窋**を以て洛州刺史と為す。**敖曹**の創は甚だしく，曰く、

「恨むらくは**季式**が刺史と作るを見ざるを。」

丞相の**歡**は之を聞き，即ち**高季式**を以て濟州刺史と為す。

東魏●［攻防戦の末、泉元禮は洛州刺史を世襲］**敖曹**は藍田關（陝西省關中道藍田県の東南、もと嶢關、現・西安市藍田県）に入らんと欲し，**歡**は人をして告げて曰わ使む、

「**寶泰**の軍は沒し，人心は恐動す，宜しく速かに還るべし。路險に賊盛んなり，身を拔くも可也。」

敖曹は衆を棄てるに忍びず，力戰し，軍を全くし而して還る。**泉企は**、**泉元禮**を以て自ら隨う。**泉仲遵**は傷重きを以て行かず。**企**は私に二子を戒めて曰く、

「吾餘生は幾くも無し，汝曹の才器は以て功を立てるに足る。吾が東に在るを以て，遂に臣節を虧く勿かれ。」

元禮は路に於いて逃げ還る。**泉**、**杜**は皆な土豪為りと雖も，鄉人は**杜**を輕んじ而して**泉**を重しとする。**元禮**、**仲遵**は陰に豪右を結び，**窋**を襲い，之を殺し，魏は**元禮**を以て洛州刺史を世襲せしむ。

■二月，丁亥（23-2+1=２２日），**上**は藉田を耕す。

■己丑（25-2+1=２４日），尚書左僕射の**何敬容**を以て中權將軍（240 号の一）と為し，護軍將軍の**蕭淵藻**を左僕射と為し，右僕射の**謝擧**を右光祿大夫と為す。

●魏は槐裡（県、漢には扶風に属し、晉には治平郡に属す。陝西省關中道興平県東南、現・咸陽市興平市）に神璽を獲て，大赦す。

東魏三月，辛未（7+60-32+1=３６日?），東魏は**七帝**（道武・明元・太武・文成・獻文・孝文・宣武）の神主を遷して新廟に入れ，大赦す。

●魏の**斛斯椿**（魏の太傅）は卒す。夏，五月，魏は廣陵王の**欣**を以て太宰と為し，**賀拔勝**を太師と為す。

●六月，魏は扶風王の**孚**を以て太保と為し，**梁景睿**を太傅と為し，廣平王の**贊**を太尉と為し，開府儀同三司の武川王の**盟**を司空と為す。

東魏［高歡側近は受禪を勧めるも拒否］東魏の丞相の**歡**は汾陽之天池（水經注に、太原の汾陽県の北燕京山上に大池有り、池は山原の上に在り。世に之を天池という。方萬里、其の水は澄淳鏡浄にして流れずと。山西省冀寧道陽曲県の西北 90 里、現・太原市陽曲県）に游び，奇石を得，隱に成文を起こして曰く「六王三川」と。以て行台郎中の**陽休之**に問い，對えて曰く、

「六と者（は），**大王**之字（あざな）（高歡の字は賀六渾）なり。**王**と者，當に天下の**王**たり。河、洛、伊は三川と為す，涇、渭、洛も（9-156p）亦た三川為り。**大王**が若し天命を受ければ，終に應に關、洛を奄有すべし。」

歡は曰く、

「世人は事無きも、常に我を反すと言う，況んや此を聞くを乎！慎みて妄言する勿かれ！」

休之は，**固**（陽固は魏の孝文帝に事え、嘗て劉昶に従いて南伐す）之子也。行台郎中の中山の**杜弼**は間を承け**歡**に禪を受けるを勸め，**歡**は杖を舉げて擊ちて之を走らす。

【東魏と梁は外交交涉展開】

東魏■［梁帝は北魏の人物に感嘆］東魏は兼散騎常侍の**李諧**を遣わして來聘し，吏部郎の**盧元明**、通直侍郎の**李業興**を以て之に副える。**諧**は，**平**（李平は崇の從弟、孝文・宣武に事える）之孫なり。**元明**は，**昶**（盧玄の孫）之子也。秋，七月，**諧**等は建康に至り，**上**は引見し，與に語り，應對すること流れるが如し。**諧**等は出で，**上**は目して之を送り，左右に謂って曰く、

「**朕**は今日勍敵（強敵）に遇い。卿の輩は嘗て言う、北間には全く人物無しと，此等は何くより而して來たるや！」

東魏［東魏の風流人材］是の時鄴下は風流を言う者，**諧**及び隴西の**李神俊**、范陽の**盧元明**、北海の**王元景**、弘農の**楊遵彦**、清河の**崔贍**を以て首と為す。**神俊**は名は**挺**，**寶**（李寶は敦煌より魏に帰し、その後貴顯なり）之孫。**元景**は名は**昕**，**憲**（王憲は王猛の孫、皇始中に魏に帰す）之曾孫也。皆な字を以て行われる。**贍**は，**凌**之子也。

東魏■［東魏と梁は華やかな外交を展開］時に南、北は通好し，務めて俊乂を以て相い誇り，命を銜み接客し，必ず一時之選を盡くす，才地無き者は焉（これ）に與（あずか）るを得ず。梁の使いの鄴に至る毎に，鄴下は之が為に傾動し，**貴勝**の子弟は盛飾して聚まり觀，禮贈優渥にして，館門は市を成す。宴日，**高澄**は常に左右をして之を覘わ使め，一言勝ちを制すれば，**澄**は之か為に掌を拊（う）つ。魏の使いは建康に至りて亦た然り。

■●［梁は獨孤信を魏に帰還させる］**獨孤信**は北に還るを求め，**上**は之を許す。**信**の父母（孝武帝が西に移るや独孤信は父母を棄てて従う）は皆な山東に在り，**上**は**信**に適く所を問い，**信**は曰く、

「君に事える者は敢えて私親を顧み而して貳心を懷かず。」

上は以て義と為し，禮送すること甚だ厚し。**信**は**楊忠**と皆な長安に至り，上書して謝罪す。魏は**信**が三荊を定める之功（前巻中大通六年にあり）有るを以て，驃騎大將軍に遷し，侍中、開府儀同三司を加え，餘の官爵は故の如し。丞相の**泰**は**楊忠**之勇を愛し，留めて帳下に置く。

【魏は恒農に反転攻勢】

●東魏［魏は恆農を攻略］魏の宇文深は丞相の泰に恆農を取るを勸める。八月，丁丑（13-0+1=１４日），泰は李弼等十二將を帥いて東魏を伐ち，北雍州（五代志に雍州の華原県に置くと、陝西省關中道耀県、現・銅川市耀州区）刺史の於謹を以て前鋒と為し，盤豆（五代志に恒農湖城関郷の西に皇天原有り、原の西に盤豆城有りと、河南省河洛道閿郷県、現・三門峡市霊宝市）を攻め，之を抜く。戊子（24-0+1=２５日），恆農に至る。庚寅（26-0+1=２７日），之を抜く，東魏の陝州（太和 11 年に置き、陝城に治し、恒農郡を帯び、西恒農・澠池・石城・河北郡を領す）刺史の李徽伯を擒とし，其の戦士八千を俘とす。

●東魏［魏は邵郡を攻略］時に河北の諸城は多く東魏に附き，左丞（行台左丞）の楊檦は自ら言う、

「父の猛は嘗て邵郡（皇興四年に置く、泉県に治す、山西省河東郡垣曲県、現・運城市垣曲県）の白水令為り，其の豪傑を知る，往きて之を說き，以て邵郡を取るを請う。」

泰は之を許す。檦は乃ち土豪の王覆憐等と舉兵し，邵郡守の程保及び縣令四人を収め，之を斬り，覆憐を表して郡守と為し，諜（諜報員）を遣わして東魏の城堡を說諭し，旬月之間に，(9-157p) 歸附するもの甚だ衆し。東魏は雍州刺史の司馬恭を以て正平（もと漢晉の臨汾の地、魏の太平眞君七年に分けて太平県を置く。神［鹿加］元年に正平に改める。太和 18 年に正平郡を置き、聞喜県を帯び、東雍州に属す。山西省河東道新絳県、現・運城市新絳県）に鎮せしめ，司空従事中郎は聞喜の裴邃は之を攻めんと欲し，恭は城を棄てて走り，泰は楊檦を以て正平郡の事を行わしむ。

■上は長干寺（建康府上元県に有り、県を去る事五里、江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）の阿育王の塔を修め，佛の爪發捨利を出す。辛卯（27-0+1=２８日），上は寺に幸し，無礙食（施食法要）を設ける，大赦す。

柔然●東魏九月，柔然は魏の為に東魏の三堆（建州永安郡平寇県、眞君七年に三堆県を併せてこれに属す。三堆戍有り。山西省雁門道崞県、現・忻州市原平市）を侵し，丞相の歡は之を撃ち，柔然は退きて走る。

【高歡は漢人と鮮卑の内部対立に配慮】

東魏［高歡は杜弼の綱紀粛正策を待たせる］行台郎中の杜弼は以えらく、文武は位在るを以て多く貪污す，丞相の歡に言い，請之を治めんと請う。歡は曰く、

「弼來たれ，我は爾に語らん！天下の貪污の習俗は已に久し。今督將（可朱渾道元・万俟普・劉豐生などの部曲）の家屬は多く關西に在り，宇文黑獺（宇文泰の字）は常に相い招誘し，人情の去留は未だ定まらず。江東も復た一の吳翁の蕭衍有りて，專ら衣冠禮樂を事とする，中原の士大夫は之を望み以て正朔の在る所と為す。我が若し急に綱紀を正し，相い假借せざれば，恐らくは督將は盡く黑獺に歸し，士子は悉く蕭衍に奔らん。人物流散すれば，何を以てか國を為さん！爾は宜しく少し待つべし，吾は之を忘れず。」（高歡は時を計り、宜を施し以て其の衆を凝固し、小過を捨てて以て大功を成す）

東魏●［高歡は閲兵式で武威を示して、杜弼は恐れ入る］歡は將に兵を出して魏を拒まんとし，杜弼は先ず內賊を除くを請う。歡は、

「內賊は誰とか為すか」

と問い，弼は曰く、

「諸勳貴の百姓を掠奪する者は是也。」

歡は應えず，軍士をして皆な弓を張り矢を注ぎ，刀を擧げ，槊を按じ，道を夾みて羅列せ使め，弼に命じ

て其の間を冒出せしめ，**弼**は戦慄して汗を流す。**歡**は乃ち徐に之を諭して曰く、
「矢は注ぐと雖も射ず，刀は擧げると雖も撃たず，槊は按ずと雖も刺さず，爾は猶ほ魄を亡い膽を失う。諸勳人は身は鋒鏑を犯し，百死に一生し，或は貪鄙なりと雖も，取る所の者大なり，豈に之を常人に同じくす可けん也！」
弼は乃ち頓首し及ばずと謝す。
東魏［高歡は漢人鮮卑を説得］歡は軍士に號令する毎に，常に丞相の屬の代郡の**張華原**をして宣旨せ令め，其の鮮卑に語るには則ち曰く、
「漢民は是れ汝の奴なり，夫は汝が為に耕し，婦は汝が為に織り，汝に粟帛を輸り，汝をして溫飽せ令む，汝は何為れぞ之を陵するや？」
其の華人に語るには則ち曰く、
「鮮卑は是れ汝の作客（脩作の客）なり，汝の一斛の粟、一匹の絹を得て，汝の為に賊を撃ち，汝をして安寧なら令む，汝は何為れぞ之を疾むや？」
東魏［華人の高敖曹と鮮卑族の内部対立］時に鮮卑は共に華人を輕んじ，唯だ**高敖曹**を憚る。**歡**は將士に號令するに，常に鮮卑語にし，**敖曹**は列に在れば，則ち之が為に華言（中華語）す。**敖曹**は上洛より返るや，**歡**は復た以て軍司、大都督と為し，七十六都督を統べしむ。司空の**侯景**を以て西道（関西攻略担当）大行台と為し，**敖曹**及び行台の**任祥**、御史中尉の**劉貴**、豫州刺史の**堯雄**、冀州刺史の**万俟洛**と同じく兵を虎牢に治せしむ。**敖曹**は北豫州刺史の**鄭嚴祖**と槊を握り（博塞の戯、胡人の戯）**(9-158p)**，**貴**は**嚴祖**を召し，**敖曹**は時に遣らず，其の使者を枷（刑具に繋ぐ）す。使者は曰く、
「枷するは則ち易く，脱するは則ち難し。」
敖曹は刀を以て枷に就きて之を刎（くびは）ね，曰く、
「又た何ぞ難からん！」
貴は敢えて校せず。明くる日，**貴**は**敖曹**と坐し，外より白す、
「治河の役夫は多く溺死す」
と，**貴**は曰く、
「一銭漢（漢人の賤しきをいう）は，之に隨いて死す！」
敖曹は怒り，拔刀して**貴**を斫る。**貴**は走り出でて營に還り，**敖曹**は鼓を鳴らして兵を會し，之を攻めんと欲す。**侯景**、**万俟洛**は共に解諭（仲介説得）し，之久しく乃ち止む。**敖曹**は嘗て相府に詣り，門者は納れず，**敖曹**は弓を比して之を射，**歡**は知り而して責めず。

■閏月，甲子（60-59+1=２日），武陵王の**紀**を以て都督益、梁等十三州諸軍事、益州刺史と為す。

【高歡の關中大侵略、沙苑の戦い】

東魏［高歡は飢饉の關中を攻める］東魏の丞相の**歡**は兵二十萬を將して壺口（山の名、山西省河東美智襄陵県、現・臨汾市襄汾県）より蒲津に趣き，**高敖曹**をして兵三萬を將して河南に出で使む。時に關中は饑え，魏の丞相の**泰**の將いる所の將士は萬人に滿たず，穀を恆農に館すること五十餘日，**歡**が將に河を濟らんとするを聞き，乃ち兵を引きて關に入り，**高敖曹**は遂に恆農を圍む。**歡**の右長史の**薛琡**は**歡**に言って曰く、
「西賊は連年饑饉し，故に死を冒して來たりて陝州に入る，倉粟を取らんと欲す。今**敖曹**は已に陝城を圍み，粟は出るを得ず。但だ兵を諸道に置き，與に野戰する勿かれ，麥秋（麦の熟する時、月令に、孟夏の月麥秋至

ると）に及ぶ比おい，其の民は自ら應に餓死し，**寶炬**、**黑獺**は何ぞ降らざるを憂えん！願わくは河を渡る勿かれ。」

侯景は曰く、

「今茲に兵を舉げ，形勢は極めて大なり，萬一にも捷たざれば，猝に收斂し難し。分けて二軍と為すに如かず，相い繼ぎ而して進み，前軍が若し勝てば，後軍は全力すべし。前軍若し敗れれば，後軍は之を承けるべし。」

歡は從わず，蒲津より河を濟る。

●東魏［王羆の守備と宇文深の展望、達奚武の索敵］丞相の**泰**は遣使して華州刺史の**王羆**を戒め，**羆**は使者に語りて曰く、

「老**羆**は道に當たりて臥し，貉（獸の名、北方にいて狐に似、よく睡る）子は那んぞ過ぎるを得ん！」

歡は馮翊（五代志に馮翊郡き後魏に華州と曰い、西魏は後に改めて同州という）城下に至る，**羆**に謂って曰く、

「何ぞ早く降らざるや！」

羆は大呼して曰く、

「此の城は是れ**王羆**の塚なり，死生は此に在り。死せんと欲する者は來たれ！」

歡は攻める可からざるを知り，乃ち洛を涉り，許原（洛水の南）の西に軍す。**泰**は渭南に至り，諸州の兵を征すも，皆な未だ會さず。進みて**歡**を擊たんと欲し，諸將は衆の寡にして敵せざるを以て，**歡**が更に西するを待ち以て其の勢いを觀るを請う。**泰**は曰く、

「**歡**が若し長安に至れば，則ち人情は大いに擾えん。今其の遠來にして新たに至るに及び，擊つ可き也。」

即ち浮橋を渭に造り，軍士をして三日糧を繼が令め，輕騎にて渭を度り，輜重は渭南より渭を夾んで而して西す。冬，十月，壬辰（28-28+1=１日），**泰**は沙苑（渭水の北、その南は漢の懷德県の古城。陝西省關中道大荔県の南、東西 80 里・南北 30 里、現・渭南市大荔県）に至り，東魏の軍に距たること六十里。諸將は皆な懼れ，**宇文深**は獨り賀す。**泰**は其の故を問う，對えて曰く、

「**歡**は河北を鎮撫し，甚だ衆心を得る。此を以て自ら守れば，未だ圖る可きこと易からず。今師を懸して渡河するは，衆の欲する所に非ず，獨り**歡**は（9-159p）**寶泰**を失うを恥じ，諫めに愎り而して來たり，所謂忿兵（漢の魏相は曰く、細故を爭恨して憤怒を忍びざる者はこれを忿兵といい、敗れる）なり，一戰して擒とす可き也。事理は昭然たり，何為れぞ賀せざらんや！願わくは**深**に一節を假し，**王羆**之兵を發して其の走路を邀え，遺類無から使むべし。」

泰は須昌縣公の**達奚武**を遣わし**歡**の軍を覘わしめ，**武**は三騎を從え，皆な**歡**の將士の衣服に效い，日暮れ，營を去ること數百步にして下馬し，潛に聽き、其の軍號を得，因りて馬に上りて營を歷，夜を警する者の若し，法の如く為らざる有れば，往往にして之を撻ち，具に敵之情狀を知り而して還る。

東魏●［沙苑の戰いで高歡軍は衆を恃んで增長］**歡**は**泰**の至るを聞き，癸巳（29-28+1=２日），兵を引いて之に會す。候騎は**歡**の兵が且に至らんとするを告げ，**泰**は諸將を召して之を謀る。開府儀同三司の**李弼**は曰く、

「彼は衆く我は寡なり，平地に陳を置く可からず，此の東十里に渭曲有り，先ず據りて以て之を待つ可し。」

泰は之に從い，背水にして東西に陳を為り，**李弼**は右拒（拒は方陣）と為し，**趙貴**を左拒と為し，將士に命じて皆な戈を葦中に偃せしめ，

「鼓聲を聞けば而して起て。」

と約す。晡時，東魏の兵は渭曲に至り，都督の太安の**斛律羌舉**は曰く、

「**黑獺**は國を舉げて而して來たり，一たび死決（死力を以て決戦）せんと欲す，譬えば猘狗（狂犬）の如し，或は能く人を噬まん。且つ渭曲は葦深く土濘にして，力を用いる所無く，緩く與に相い持ち（胡三省曰く、斛律羌舉の計をして行わしめば、西魏は危うからんかなと），密に精鋭を分けて徑ちに長安を掩うに如かず，巢穴既に傾けば，則ち**黑獺**は戰わずして擒と成らん矣。」

歡は曰く、

「火を縱ちて之を焚かん，何如や？」

侯景は曰く、（この言は衆を恃んで敵を軽んじる心有り）

「當に**黑獺**を生きて擒とし以て百姓に示すべし，若し衆中に燒死すれば，誰か覆た之を信じん！」

彭樂、**盛氣**は鬥わんと請い，曰く、

「我は衆く賊は寡なり，百人にして一を擒とす，何の克たざるを憂えん！」

歡は之に從う。

東魏●［魏の兵は奮闘して東魏を撃破］東魏の兵は魏兵の少なきを望見し，爭いて進みて之を擊ち，復た行列無し。兵は將に交わらんとし，丞相の**泰**は鼓を鳴らし，士は皆な奮起し，**於謹**等六軍は之と合戰し（時に東魏の兵は左拒に集る。於謹等はこれと合戦し、李弼は右拒の騎兵を引き横より撃つ），**李弼**等は鐵騎を帥いて之を横擊し，東魏の兵は中絕して二と為り，遂に大いに之を破る。**李弼**の弟の**檦**は，身小に而して勇なり，毎に馬を躍らせて陳を陷れ，身を鞍甲之中に隱し，敵は見て皆な曰く、

「此の小兒を避けよ！」

泰は歎じて曰く、

「膽決此くの如し，何ぞ必ずしも八尺之軀ならん！」

征虜將軍の武川の**耿令貴**は殺傷すること多く，甲裳は盡く赤くなり，**泰**は曰く、

「其の甲裳を觀れば，**令貴**之勇ましきを知るに足るべし，何ぞ必ずしも級を數えん（斬獲の首級を数える）！」

彭樂は醉いに乘りて深く魏の陳に入り，魏人は之を刺し，腸は出で，之を內れて復た戰う。丞相の**歡**は兵を收めて更に戰わんと欲し，**張華原**をして簿（軍の名簿）を以て營を歷、兵を點せ使む，應ずる者有る莫く，還り，**歡**に白して曰く、

「衆は盡く去り，營は皆な空なり矣！」

歡は猶ほ未だ肯えて去らず。阜城侯の**斛律金**は曰く、

「衆心は離散し，復た用いる可からず，宜しく急に河東に向かうべし！」(9-160p)

歡は鞍に據りて未だ動かず，**金**は鞭を以て馬を拂い，乃ち馳せ去り，夜，河を渡り，船は岸を去ること遠く，**歡**は橐駝に跨りて船に就き，乃ち渡るを得る。甲士八萬人を喪い，鎧仗十有八萬を棄てる。丞相の**泰**は**歡**を追いて河上に至り，選びて甲士二萬餘人を留め，餘は悉く縱ちて歸らしむ。都督の**李穆**は曰く、

「**高歡**は膽を破れり矣，速に之を追いて，獲る可し。」

泰は聽かず，（胡三省曰く、沙苑の戰いに宇文泰は敢えて勝ちに乘じて高歡を追わず、邙山の戰いに高歡は敢えて勝ちに乘じて泰を追わず。蓋し二人は智力相敵し、以て相持するに足れども、以て相斃すに足らざるなりと）軍を渭南に還し，征する所の之兵は甫めて至り，乃ち戰う所に於いて人ごとに種柳一株を植えしめ以て武功を旌わす。

東魏［侯景の逆襲案を却下］**侯景**は**歡**に言って曰く、

「**黑獺**は新たに勝ち而して驕り，必ず備えを為さず，願わくは精騎二萬を得て，逕に往きて之を取らん。」

歡は以て**婁妃**に告げ，**妃**は曰く、

「設し其の言の如きならば，**景**は豈に還る理有らんや！**黑獺**を得而して**景**を失えば，何の利か之れ有らん！」
歡は乃ち止む。
●［**魏の論功行賞**］魏は丞相の**泰**に柱國大將軍を加え，**李弼**等十二將(李弼・獨孤信・梁禦・趙貴・於謹・若干惠・怡峯・劉亮・王德・侯莫陳崇・李遠・達奚武)は皆な爵を進めて邑を增すこと差有り。
東魏**高敖曹**は**歡**の敗れるを聞き，恆農を釋て，退きて洛陽を保つ。

●東魏［**魏は洛陽をうかがう**］己酉（45-28+1=１８日），魏の行台の**宮景壽**等は洛陽に向かい，東魏の洛州（上洛に治す）大都督の**韓賢**は擊ちて之を走らす。州民の**韓木蘭**は亂を作り，**賢**は擊ちて之を破る。一賊は屍間に匿れ，**賢**は自ら按檢して鎧仗を收め，賊は欻(たちま)ち起きて之を斫り，脛を斷ち而して卒す。魏は復た行台の馮翊の**王季海**を遣わして**獨孤信**と步騎二萬を將して洛陽に趣かしめ，洛州刺史の**李顯**をして三荊に趣かしめ，**賀拔勝**、**李弼**は蒲板を圍む。
●東魏［**蒲板民の敬珍は高歡を追擊**］東魏の丞相の**歡**之西伐する也，蒲板の民の**敬珍**は其の從祖兄の**祥**に謂って曰く、
「**高歡**は乘輿を迫逐せり，天下の忠義之士は皆な刃を其の腹に剚さんと欲す。今又た兵を稱げて西上す，吾は兄と兵を起こして其の歸路を斷たんと欲す，此れ千載の一時也。」
祥は之に從い，鄉里を糾合し，數日にして，衆は萬餘有り。會々**歡**は沙苑より敗れて歸り，**祥**、**珍**は衆を帥いて之を邀え，斬獲は甚だ衆し。**賀拔勝**、**李弼**は河東に至り，**祥**、**珍**は猗氏（漢より以來河東郡に屬す、山西省河東道猗氏県、現・運城市臨猗県）等六縣十餘萬戶を帥いて之に歸し，丞相の**泰**は**珍**を以て平陽太守と為し，**祥**を行台郎中と為す。
東魏の秦州刺史の**薛崇禮**は蒲板を守り，別駕の**薛善**は，**崇禮**之族弟也，**崇禮**に言って曰く、
「**高歡**は君を逐う之罪有り，**善**は兄と衣冠の緖餘を忝(かたじけな)くし，世々國恩を荷ない，今大軍は已に臨むに，而るに猶ほ**高氏**の為に固守す。一旦城陷り，首を函して長安に送られ，署して逆賊と為れば，死して餘愧有らん。今に及びて款を歸するは，猶ほ愈(まさ)れりと為す也。」
崇禮は猶豫して決せず。**善**は族人と關を斬りて魏師を納れ，**崇禮**は出でて走り，追いて之を獲る。丞相の**泰**は蒲板に進軍し，汾（汾州は山西省冀寧道汾陽県、現・呂梁市汾陽市）、絳（漢の臨汾県に後魏は東雍州を置き、北周は絳州と改める、山西省河東郡新絳県、現・運城市新絳県）を略ぼ定め，凡そ**薛氏**の城を開く之謀に預る者は，皆な五等の爵を賜る。**善**は曰く、
「逆に背きて歸順するは，臣子の常節なり，豈に闔門の大小俱に封邑を叨(みだり)にする容(べ)けんや！」
其の弟の**愼**と固辭して受けず。(9-161p)
東魏●［**薛修義は晉州を守る**］東魏の行晉州事の**封祖業**は城を棄てて走り，儀同三司の**薛修義**（東魏 478-554）は追いて洪洞（平陽の北、四固重複し要險に控據す。山西省河東道洪洞県、現・臨汾市洪洞県）に至り，**祖業**を說いて還り守らしめんとするも，**祖業**は從わず。**修義**は還りて晉州に據り，安集して固守す。魏の儀同三司の**長孫子彥**は兵を引いて城下に至り，**修義**は開門して甲を伏せて以て之を待つ。**子彥**は虛實を測らず，遂に退き走る。丞相の**歡**は**修義**を以て晉州刺史と為す。
●東魏［**獨孤信は荒廢した洛陽に乘り込む**］**獨孤信**（西魏側）は新安（漢の弘農郡の県、晉の河南尹、魏の天平の初めに新安郡を置き洛州に屬す。河南省河洛道新安県、現・洛陽市新安県）に至り，**高敖曹**（東魏側）は兵を引いて北に河を度る。**信**は洛陽に逼り，洛州刺史の廣陽王の**湛**は城を棄てて鄴に歸り，**信**は遂に金墉城（洛陽城の西北に魏の明

帝が築く）に據る。**孝武帝**之西遷（前巻中大通六年にあり）する也，散騎常侍の河東の**裴寬**は諸弟に謂って曰く、

「**天子**は既に西し，吾は以て東して**高氏**に附く可からず。」

家屬を帥いて大石嶺（水經注に、洛陽の南に新城県あり、県の界に大石嶺有り、來儒の水はその南をたどると）に逃げる。**獨孤信**は洛に入る，乃ち出でて之を見る。時に洛陽は荒廢し，人士は流散し，唯だ河東の**柳虯**は陽城（漢の潁川郡に属する県、晉では河南尹に属す。魏の孝昌二年に陽城郡を置き、洛州に属す。河南省河洛道登封県の東南、現・鄭州市登封市告成鎮）に在り，**裴諏之**は潁川に在り，**信**は俱に之を征し，**虯**を以て行台郎中と為し，**諏之**を開府屬と為す。

●東魏［河南各地で蜂起し魏に降る］東魏の潁州（天平の初めに置き長社城に治し、許昌・潁川・陽翟郡を領す、河南省開封道長葛県、現・許昌市長葛市の東）長史の**賀若統**（賀若は複姓）は刺史の**田迄**を執り，城を擧げて魏に降り，魏の都督の**梁回**は入りて其の城に據る。前通直散騎侍郎の**鄭偉**は兵を陳留に起こし，東魏の梁州（天平の初めに置き大梁城に治す。陽夏・開封・陳留・汝南・潁川・汝陽・義陽・新蔡・初安・襄陽・廣陵郡を領す、河南省開封道開封県、現・開封市祥符区）を攻め，其の刺史の**鹿永吉**を執る。前大司馬の從事中郎の**崔彦穆**は滎陽を攻め，其の太守の**蘇淑**を執り，廣州長史の**劉志**と皆な魏に降る。**偉**は，**先護**（鄭先護は 152 巻大通二年にあり）之子也。丞相の**泰**は**偉**を以て北徐州刺史と為し，**彦穆**を滎陽太守と為す。

東魏●［東魏の逆襲を宇文貴は果敢に撃退］十一月，東魏の行台の**任祥**は督將の**堯雄**、**趙育**、**是雲寶**を帥いて潁川を攻め，丞相の**泰**は大都督の**宇文貴**、樂陵公の遼西の**怡峰**（遼西の怡寬の子）をして歩騎二千を將して之を救わ使む。軍は陽翟（漢の潁川郡の県、晉は河南尹、後魏に陽翟郡を置く、現・許昌市禹州市）に至り，**雄**等の軍は已に潁川の三十里に去り，**祥**は衆四萬を帥いて其の後に繼ぐ。諸將は鹹な以為く、

「彼は衆く我は寡なし，鋒を爭う可からず。」

貴は曰く、

「**雄**等は吾が兵が少なく，必ず敢えて進まずと謂(おも)わん。彼は**任祥**と兵を合わせて潁川を攻め，城は必ず危うからん矣。若し**賀若統**が陷沒すれば，吾が輩(ともがら)は此に坐して何をか為さん！今進みて潁川に據れば，城の守る可き有り，又た其の不意に出て，之を破るは必ずなり矣！」

遂に疾(と)く趨りて，潁川に據り，城を背にして陳を為りて以て待つ。**雄**等は至り，合戰し，大いに之を破る。**雄**は走り，**趙育**は降を請い，其の士卒萬餘人を俘とし，悉く縱ちて之を遣る。**任祥**は**雄**の敗れるを聞き，敢えて進まず，**貴**は**怡峰**と勝ちに乘りて之に逼り，**祥**は退きて宛陵（漢の河南尹に属す県、晉の滎陽郡。天平の初め分かちて廣武郡に属す。安徽省蕪湖道宜城県、現・宣城市宣州区）を保つ。(9-162p) **貴**は追及し，之を擊ち，**祥**の軍は大敗す。**是雲寶**は其の陽州（天平の初め置き、宜陽に治す。宜陽・金門郡を領す。河南省河洛道宜陽県、現・洛陽市宜陽県）刺史の**那椿**を殺し，州を以て魏に降る。魏は**貴**を以て開府儀同三司と為し，**是雲寶**、**趙育**を車騎大將軍と為す。

●東魏都督の杜陵の**韋孝寬**（西魏側、509-580）は東魏の豫州を攻め，之を抜き，其の行台の**馮邕**を執る。**孝寬**の名は**叔裕**，字を以て行う。

東魏丙子（12+60-58+1=１５日），東魏は驃騎大將軍、儀同三司の**万俟普**を以て太尉と為す。

■司農の**張樂皋**等は東魏に聘す。（司農の下に恐らくは脱字有り）

●東魏十二月，魏の行台の**楊白駒**は東魏の陽州刺史の**段粲**と蓼塢（水經注に、蓼水は河北県襄山蓼谷に出て、當時の人は此の谷に於いて塢を築く。因りて之を蓼塢と謂うと。襄山は潼関の北十餘里にあり）に於いて戰い，魏師は敗績す。

●東魏［東荊州以外はほとんど西魏に帰す］魏の荊州刺史の**郭鸞**は東魏の東荊州刺史の清都（東魏は鄴に都し、魏郡を以て清都の尹と為す）の**慕容儼**を攻め，**儼**は晝夜拒戰すること二百餘日，間に乘じて出でて**鸞**を擊ち，大いに之を破る。時に河南の諸州は多く守りを失い，唯だ東荊は全くするを獲たり。

●河間の**邢磨納**、范陽の**盧仲禮**、**仲禮**の従弟の**仲裕**等は皆な兵を海隅に起こして以て魏に應じる。

東魏［**高季式の活躍で濟州は動揺せず**］東魏の濟州刺史の**高季式**は部曲千餘人，馬八百匹有り，鎧仗は皆な備わる。濮陽の民の**杜靈椿**等は盗を為し，衆を聚めること萬人に近く，城を攻め野を剽す。**季式**は騎三百を遣わして，一戰して之を擒とし，又た陽平の賊の**路文徒**等を撃ち，悉く之を平らげ，是に於いて遠近は肅清とす。或は**季式**に謂って曰く、

「濮陽、陽平は乃ち畿内之郡なり，詔命（季式をして賊を討たしむ詔命無く、賊はまた来たりて濟州の界を侵さざるをいう）を奉じず，又た境を侵さざるに，何ぞ急に而して私軍（季式が自ら養う部曲にして、官に衣食せず、自腹の軍勢）をして遠く戰わ使むや！萬一にも利を失えば，豈に罪を獲ざらん乎！」

季式は曰く、

「君は何ぞ言之不忠なる也！我は國家と安を同じくし危を共にす，豈に賊を見て而も討たざる有らん乎！且つ賊は台軍の猝にして來る能わざるを知り，又た外州に兵有りて之を撃つを疑わず，其の備え無きに乗ずれば，之を破るは必ずなり矣。此を以て罪を獲るとも，吾は亦た恨む無し！」

令和 5 年 2 月 2 日　翻訳開始　9997 文字
令和 5 年 2 月 10 日　翻訳終了　21973 文字